

# ペDESTリアンデッキ修繕計画

令和8年10月



志木市

## (1)長寿命化修繕計画の背景と目的

### 1)背景

市は、令和4年3月に「志木駅東口ペDESTリアンデッキ(以下、ペDESTリアンデッキ)の修繕計画を策定し、本施設の効率的な維持管理を図ってきました。現在は志木市のまちづくり方針(第二次志木市将来ビジョン)及び「志木市公共施設等マネジメント戦略」に基づき、中心市街地の賑わい創出と安全・安心な歩行者空間の確保を目指した改修工事の設計を進めています。本改定は、将来のアセットマネジメント方針を実装するために行うものです。

| 施設名              | 路線名        | 所在地          | 建設年次   | 延長(m) | 幅員(m) |
|------------------|------------|--------------|--------|-------|-------|
| 志木駅東口ペDESTリアンデッキ | 市道 1423 号線 | 志木市本町 5 丁目地内 | 1999 年 | 283.4 | 3.8   |



### 2)目的

- 計画的かつ予防保全的な維持管理を実施することで、ペDESTリアンデッキの安全性を確保します。
- 点検性の向上、新技術・高耐久素材の導入、管理アセット削減により、将来必要となるコストの縮減及び維持管理負担の適正化を図ります。

## (2)維持管理の実施状況

平成 22 年度からの維持管理の実施状況は以下の通りです。

### 点検事例

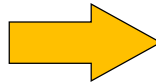
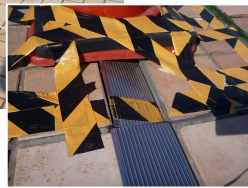
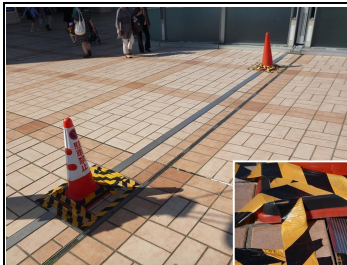


デッキ下面の点検（夜間）

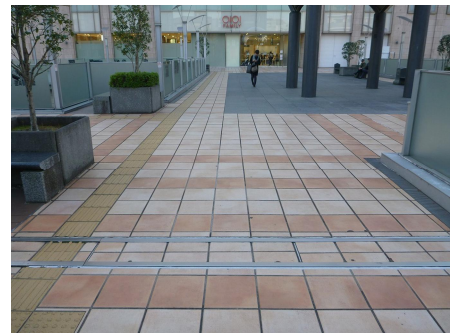
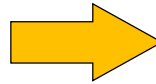


デッキ上面の点検（昼間）

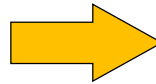
### 補修事例



伸縮装置の取替え



タイルの打替え



化粧パネルの漏水対策

### (3)ペDESTリアンデッキの現状

定期点検の結果、主に以下の損傷が確認されました。



緊急性のある損傷は見られないものの、鋼部材の腐食が広範囲に見られることから「予防保全段階」に区分されるⅡ判定と診断いたしました。また、補修した箇所以外の化粧パネルから新たに漏水が確認されました。

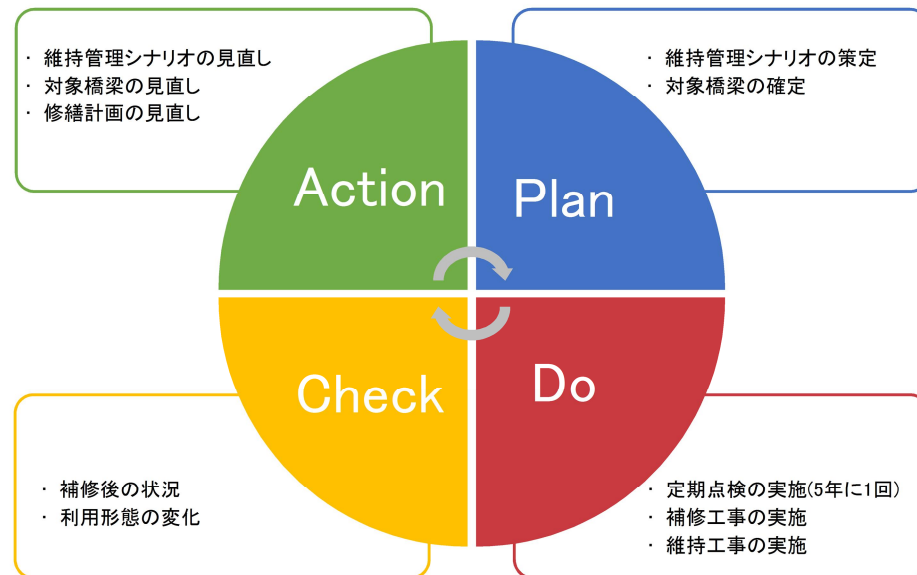
#### 判 定 区

| 区分  |        | 定義                                             |
|-----|--------|------------------------------------------------|
| I   | 健全     | 横断歩道橋の機能に支障が生じていない状態。                          |
| II  | 予防保全段階 | 横断歩道橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。  |
| III | 早期措置段階 | 横断歩道橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。            |
| IV  | 緊急措置段階 | 横断歩道橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。 |

#### (4)老朽化対策における基本方針

効率的で適切な維持管理のため、ペDESTリアンデッキ管理のマネジメントサイクル(PDCA サイクル)によって継続的に事業を進めていきます。

ペDESTリアンデッキのマネジメントサイクルの流れ



志木市の実状を考慮して、維持管理の内容別に下記の2つの管理シナリオを設定しました。

| 管理シナリオ | 維持管理内容                                  |
|--------|-----------------------------------------|
| 予防保全型  | ペDESTリアンデッキの長寿命化を目的としたLCCが縮減できる維持管理シナリオ |
| 事後保全型  | 損傷が顕在化してから補修を実施する維持管理シナリオ               |

損傷の進行が軽微な段階で対応することで、ペDESTリアンデッキの安全性を確保し、将来必要となるコストを縮減できる **予防保全型**の管理を基本とします。

## (5)新技術等の活用方針

ドローン等のロボットや人工知能(AI)による点検支援技術の活用および修繕における新材料や新工法の活用に向け、道路メンテナンスに関する新技術や技術開発の動向を把握し、点検作業の効率化や修繕コストの削減を目指して活用を検討します。具体的には、床版更新の際に軽量化を図ったアルミ製部材に更新することでメンテナンス性が向上し、長期的にコスト削減を図ります。

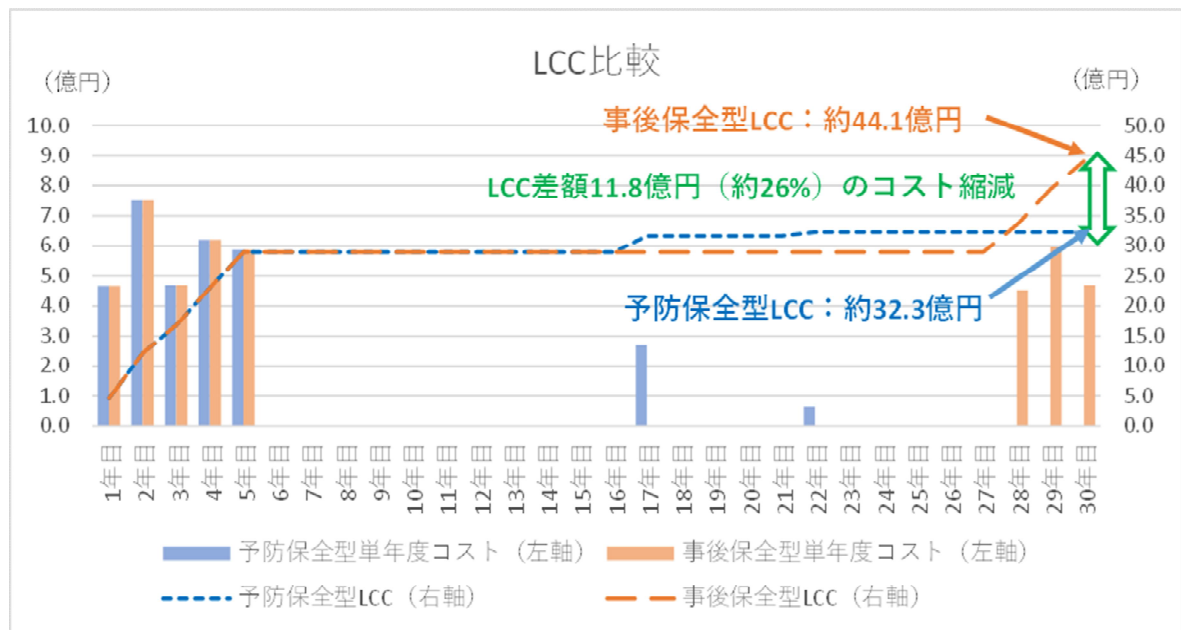


図 新技術活用によるLCC 削減効果

## (6)集約・撤去方針

本ペDESTリアンデッキは志木市が管理する唯一の横断歩道橋であり、利用者も多いため集約・撤去はなじまないことから、維持・修繕により長寿命化を図るものとします。ただし、将来の利用状況等の変化に応じて継続的に検討を行います。なお、将来の市財政負担及び現地点検労力を削減するため、施設単位ではなく部材や工種を対象とした集約・撤去については以下のとおり目標を設定します。

- ・視認性向上を図った部材への更新による点検作業の省力化：地上目視点検化率 100%
- ・照明設備の集約化：LED 化率 100%
- ・管理対象施設（部材）の削減：1 基

## (7)今後の取り組み

- ① PDCA サイクルを導入し、継続的にペDESTリアンデッキ長寿命化対策を実施することで、効率的かつ合理的な維持管理の実現を目指します。
- ② 5年毎に定期点検を実施し、ペDESTリアンデッキの損傷状況を把握します。
- ③ 今後5年間で計画序盤に化粧パネルを取り外し、主要部材の塗り替え塗装を行い、再度パネルを設置する計画とします。

表 計画期間における修繕計画年次表

| 施設名                  | 路線名      | 延長<br>(m) | 最新<br>点検<br>年次 | 健全性 | 次回<br>点検<br>年次 | 工事および調査・計画の時期       |                  |                  |                  |                  |
|----------------------|----------|-----------|----------------|-----|----------------|---------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
|                      |          |           |                |     |                | 2027年<br>(令和9年)     | 2028年<br>(令和10年) | 2029年<br>(令和11年) | 2030年<br>(令和12年) | 2031年<br>(令和13年) |
| 志木駅東口<br>ペDESTリアンデッキ | 市道1423号線 | 283.40    | 2025年          | Ⅱ   | 2030年          | 大屋根設<br>置、通路部<br>拡幅 | 化粧パネル<br>の撤去     | 塗装塗り替<br>え       | 排水管の取<br>り替え     | 化粧パネル<br>設置      |
|                      |          |           |                |     |                | 4.7億円               | 7.5億円            | 4.7億円            | 6.2億円            | 5.9億円            |

概算事業費合計 約29億円

(8)計画策定担当部署

志木市 都市整備部 道路課

〒353-8501 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号

TEL:048-473-1111(代表)